

YADORI Café

設計趣旨

東西に細長い敷地でシンボルストリートに沿って深い軒下空間をつくる配置計画とする。その軒下空間は日本建築の縁側のように環境的にも心理的にも内と外の中間領域を形成する。そこに居場所となる家具を配置し、人をこの建物へ自然と誘い、「宿り」を生む。「宿り」という日本的な所作が示すように、「宿り」から様々な出会い（学生同士の出会いのみならず、企業との出会い、情報との出会いなど）を引き起こす。そして様々な出会いによって化学反応が起こり共創の場となる。

コスト面を考慮して、既存カフェは原則そのまま利用し、本建物と軒下空間で繋げ一体的に使用できるようにする。ファサードはガラス張りとし、視覚的に内と外を繋げる。そうすることで、夜間はシンボルロードを照らす行灯になる。南に向いた下屋根にはソーラーパネルを載せ、ハイサイド窓からの採光と自然換気が可能な屋根形状とするなど、環境に配慮したデザインとする。

また、本事業整備費を寄附された日亜化学工業株式会社は川上の森林保全にもご尽力されており、本建物も山と繋がった土着木造建築を追求する。例えば、外周部の柱は芯去材の平角柱とすることによって、徳島の山で課題となっている大径材の活用に貢献する。さらに、曲線の間仕切り壁は間伐材の丸太を利用するなど、山の実情に合った木材利用に努める。そうすることによって、自然と徳島らしい土着木造建築となり、ここで過ごす学生にとっても地域の実態を知るいい教材になる。

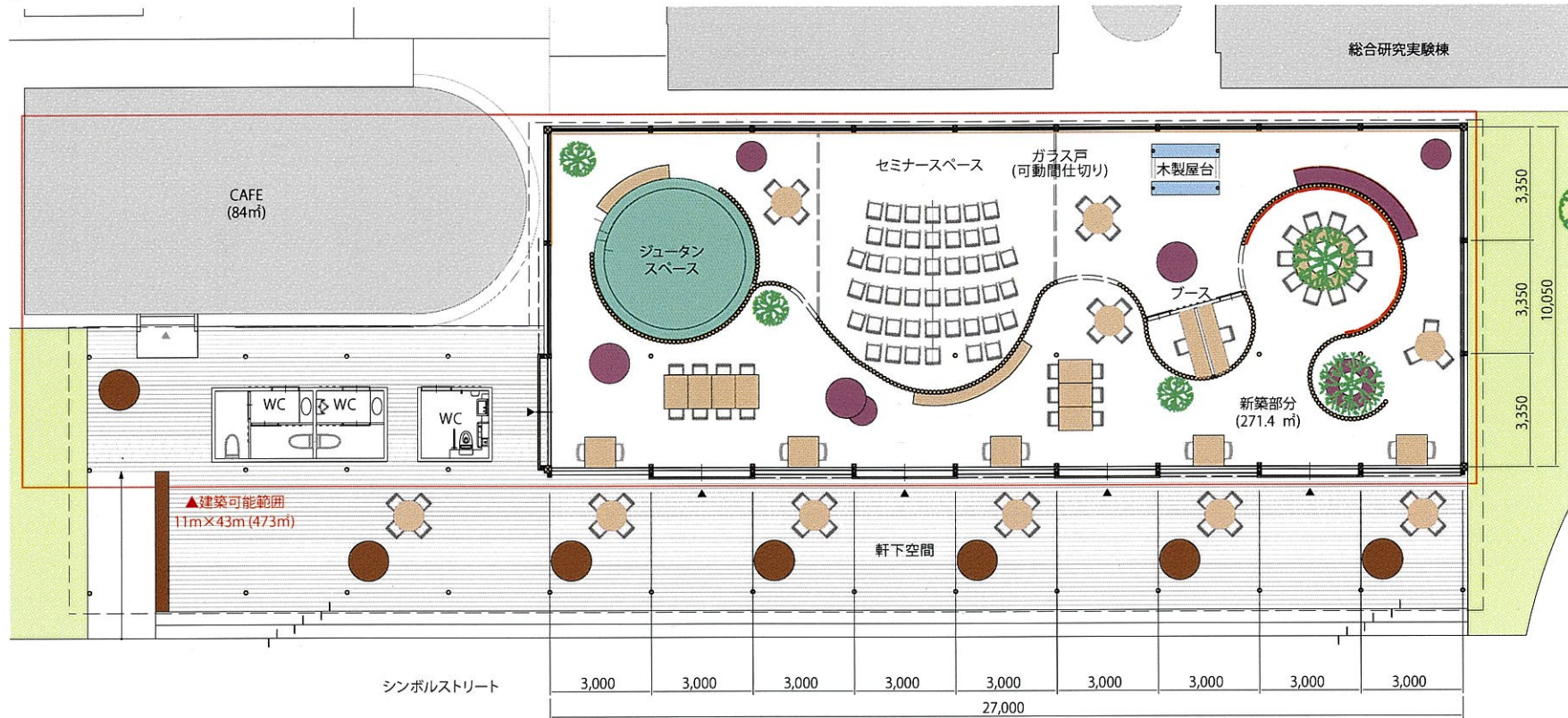
外周部に耐力壁（筋交いによる耐力壁は日亜化学工業株式会社のイニシャルNをイメージさせる）を配置し、小屋組をトラス構造とすることによって、内部は大空間を実現させる。曲線の間仕切り壁は耐力を担っていないので可動式にすることができ、学生が自由に考えてシーンに合わせた場をつくっていける。グループミーティングできる開放的な空間や、逆に内に引きこまれる囲まれ感のある空間をつくることもできる。セミナースペースはガラスの可動間仕切りで閉じて使用するだけでなく、間仕切りをなくして、さらに広い空間として使用することもできる。学生が開発した商品を販売するためのブースなどは折畳み式の木製屋台とし、自由にレイアウト可能である。フレキシブルな平面計画はこれからの時代の流れに対応していくための必須条件である。

学生がこの先向かういかなる社会に於いても進歩を可能ならしめる二つの真理として「自由」と「秩序」がある。秩序のない自由はカオスであり、また自由のない秩序は抑制である。秩序のない自由ではなく、秩序ある自由を！このイノベーション・commonsは学生の自由な発想を育むきっかけの場となる。構造架構を直線で構成することで「秩序」を表現し、その内部にある間仕切りを曲線で構成することで「自由」を表現している。このように、本計画はイノベーション・commonsの思想をいくつかの手法で建築的に表現したものとなる。

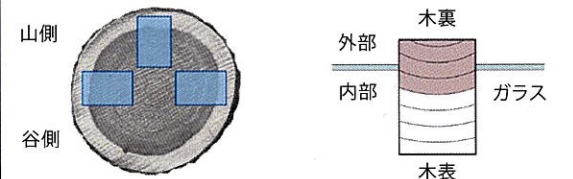
イメージパース



平面図 S=1/200



芯去り材の木取りと意匠



ファサードの現し柱には、割れが生じにくい芯去り平角材を使用。柱は90~100年生の丸太から2~3丁取りをし、残りを垂木など羽柄材に利用して歩留まりに留意する。内外とも現しの平角柱は、表情が素直な木表を内部側へ、水に強い赤身が多い木裏を保護塗装して外部に向けるなど意匠と性能維持の両面に配慮する。

